

令和2年(2020年)11月30日



国内初伊丹市新庁舎と仮設作業所事務所で

ZEB Ready 認証を取得

— 隈研吾建築都市設計事務所が手掛ける初のZEB建築 —

伊 丹 市
隈研吾建築都市設計事務所
大成建設株式会社

伊丹市(市長:藤原保幸)は、隈研吾建築都市設計事務所(東京都港区 代表:横尾実)が基本設計、実施設計監修、工事監理を行い、大成建設株式会社(東京都新宿区 社長:相川善郎)が実施設計及び施工を担当する伊丹市新庁舎整備工事(兵庫県伊丹市)において、建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)^{※1}によるZEB Ready^{※2}認証を令和2年11月27日に取得し、5段階評価の最高ランクを獲得しました。これは、[隈研吾建築都市設計事務所が手掛ける初めてのZEB\(ゼロエネルギービルディング\)建築](#)となります。

また、大成建設が設置する仮設作業所事務所においても令和2年3月10日にZEB Ready 認証を取得しており、[本設建物となる新庁舎と仮設作業所事務所の両方でのZEB Ready 認証の取得は国内初](#)となり、そして新庁舎は、[延床面積2万m²を超える大規模庁舎において、西日本初のZEB Ready 認証を取得した庁舎](#)となります。

伊丹市の新庁舎は「市民の安全・安心な暮らしを支え夢と魅力があふれる庁舎」を基本コンセプトとし、「環境に配慮した庁舎」を目指し、計画を進めてきました。

隈研吾建築都市設計事務所は「既存庁舎を生かしながらの建替、まちづくりや景観に配慮した意匠、BCPや免震、といった庁舎建替が直面する様々な課題をクリアしつつ、2万m²を超える大規模庁舎としてZEB Readyを達成」を設計コンセプトとして掲げ、基本設計を担当しました。

大成建設はこの基本設計に基づき、基本設計先行型 設計・施工一括発注(DB)方式で受注し、実施設計から施工までを担当しています。

新庁舎は、高断熱、高气密な建物とし、自然採光や自然換気が可能なプランニングとなっています。開口部にはLow-E 複層ガラスの採用に加え、効果的な庇や外部フィンを導入することで空調負荷を削減し、高効率機器による潜熱顕熱分離空調方式^{※3}を採用しています。また、LED 照明器具をベースにした照明は、人検知センサを利用した高度な制御を採用しました。これらの技術を導入することにより、標準的な建築物と比べて一次エネルギー消費量を大幅に削減しています。

また、災害時に備えた自立運転も可能な蓄電池付き太陽光発電設備を整備し、創エネルギーも行うことで、トータル54%のエネルギー削減を実現しています。本取組みにより、環境省が実施する「レジリエンス強化型ZEB 実証事業」に採択され、補助金が交付されることにより市民負担の軽減を図ることとなっております。

竣工後は BEMS（ビルエネルギー管理システム）による設備管理に加え、遠隔監視システムを活用し専門家によるエネルギーサポートを行うことで、計画通りの確実な省エネルギー運用を行える体制も整えています。

引き続き伊丹市は、“市民の安全・安心な暮らしを支え 夢と魅力あふれる庁舎”の基本理念に基づき、令和4年秋の竣工を目指し、新庁舎整備事業を推進してまいります。



伊丹市新庁舎 外観イメージ

■ 建物概要

建物名称	伊丹市庁舎
計画地	兵庫県伊丹市千僧 1 丁目 1 番地
階数	地下 1 階、地上 6 階
延床面積	21,943.67㎡
工期	1 期工事（新庁舎建設工事） 2020 年 1 月～2022 年 11 月（予定） 2 期工事（現庁舎等解体工事） 2022 年 11 月（予定）～2024 年 5 月（予定） 3 期工事（外構工事） 2024 年 5 月（予定）～2024 年 8 月（予定）



新庁舎 BELS での
ZEB Ready 認証取得



作業所事務所 内観



作業所事務所 BELS での
ZEB Ready 認証取得

- ※1 国土交通省が定めた、建築物を対象とした省エネルギー性能等に関する評価・表示を行う制度
- ※2 再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から 50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物
- ※3 潜熱顕熱分離空調方式：空調熱負荷のうち、潜熱（湿度）と顕熱（温度）を別々に処理する空調方式。本建物では集約配置された外気処理空調機で室内湿度を調節し、分散配置された室内用空調機で室内温度を調節する。これにより快適な室内温湿度を実現するとともに、省エネルギーを両立した。

＜問い合わせ先＞

伊丹市総務部新庁舎等整備室

TEL：072-784-8120 FAX：072-784-8136

担当：中西

<添付資料>

隈研吾氏のコメント全文

「環境問題に対する建築の貢献・技術発展が日々進み、近年になりZEB（ゼロエネルギービル）やW0（ウェルネスオフィス）といった新しいスタンダードが生まれてくるなかで、各地方自治体はその土地の気候や風土、文化に寄り添った回答を模索し、全地球的な環境問題に対峙していく必要があると感じています。伊丹は緑や公園が多く、清酒発祥の地でもあり、子育てや高齢者に対する行政サービスがとても充実したまちですが、環境配慮についても熱心に取り組まれており、伊丹市新庁舎では基本設計初期段階からZEB Readyの検討を開始し、実施設計を経て、今回ZEB認証を取得するに至りました。既存庁舎を生かしながらの建替、まちづくりや景観に配慮した意匠、BCPや免震、といった庁舎建替が直面する様々な課題をクリアしつつ、20,000平米を超える大規模庁舎としてZEB Readyを達成できたことは、今後の庁舎建築において大変意義のあるものです。自然、文化と共に暮らす、日本一住みやすい伊丹から、新しい環境時代に対する真摯な回答が世界へ向けて発信されることを期待しています。」